

## <成果報告書>

報告者氏名：清閑寺 由子 所属：世田谷区立奥沢小学校 記録日：平成25年2月28日

1.

### 【対象児の情報】

#### ・学年

小学校6年生の女兒

#### ・障害名

知的遅滞、自閉的傾向あり

#### ・障害と困難の内容

日常生活の中で、読み書きを活用することが困難である。

(文字を書くことはできるが、文字のバランスが不安定で、時間がかかる。

習得している単語が少なく、単語と捉えて文章を読むことが難しい。)

集中が難しい。気になることがあると、気持ちを切り替えることに時間を要する。

一つ一つの動作がゆっくりである。

### 【活動目的】

#### ・当初のねらい

学習に向かう姿勢ができており、何事にも意欲的に取り組む児童である。

簡単な読み書きができ、見たり聞いたりしたことを単文で表現することができるが、生活の中での活用は難しい。読み書きの活動に時間を必要とする、集中できる環境を整える必要がある、言葉を想起することに時間がかかるなどが支障となる。日常生活で読み書きを活用するための初期段階として、iPad を使い支援することで、自分の知識を生活の中で活かす経験をし、楽しさを味わわせることが目的である。また、文字を書くことにこだわるのではなく、ICT 機器を使う便利さや活動の幅が広がることも感じさせたい。そのため、体験活動を通して見たり聞いたりしたことを記録する、まとめる活動に取り組むことにした。

#### ・実施期間

平成24年4～5月、6月18日～20日、7月25日、

9月7日、11日、25日、10月2日、4日、23日

#### ・実施者

清閑寺 由子 (教諭)

#### ・実施者と対象児の関係

固定学級の担任、対象児童の担当

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

学級で栽培している植物の観察活動を行っていた。絵に描き表わすことや見たことを言葉にすることが難しく、放棄する姿が見られた。

校外学習では、体験中に感じた想いを児童がその場で記録することができない。そのため、自分で撮影した写真を見ながら後日思い出すが、当日と比べ言葉が減ってしまう。教師が言葉を記録し後日伝えると、児童が想起する活動ができない。

### ・活動の具体的内容

「絵日記」「カメラ」「マップ」のアプリを使用し、校外学習の記録と地域探検に取り組んだ。「絵日記」は、対象児が理解している言葉であったこと、写真と文章が1枚にまとめられること、操作が簡単であることから使用することにした。

#### ①ねらい：カメラでの撮影に慣れる

4～5月に、校内の植物や友達を撮影する。その際、撮りたいものを決めること、その撮りたいものを全て写すことを意識して撮影するように指導した。また、ズームなど複雑な機能は伝えず、iPadを縦横に動かせること、大きく写したい場合には画面を見ながら前進することを教えた。

#### ②ねらい：新たな環境においても、撮影することができる／文章をつけることができる

6月の宿泊学習で、外に持ち歩き写真を撮影する活動を行った。宿泊学習という環境の中でも、「撮りたい」と言い、山や花の撮影を進んで行った。ここで、「絵日記」を使用しその場で気持ちや状況を記録した。撮影後すぐに記録をつけたため、「きれいな。大きいね。赤だね。見せたいね。楽しいです。」など色々な言葉が出てきた。

#### ③ねらい：自分で撮影しまとめ、友達に発表することができる

7月の宿泊学習では、対象児にiPadを持たせ自由に撮影・記録をさせた。通常学級との交流行事であったため、活動時間が少なかった。その中でも「ママに言いたい。〇〇ちゃん（友達）に見せたい。」と言って、自分で撮影と記録を行った。文章入力の際には、ベンチに座って行うことで、安心して言葉を出すことができた。学校に戻ってからは、「これ見て。」と言って、友達に見せていた。

#### ④ねらい：地域にあるものの説明をする

9月に地域探検へ行き、地域にある施設（消防署、図書館、商店街）を写真撮影し説明をつけ、その場所の地図をスクリーンショットで撮影する。買い物学習で使用しているスーパーや本を借りたことのある図書館では、児童が実際に使用した経験があるため説明を考えることができた。消防署や商店街は、施設を見るだけとなり説明を考えることができなかった。



### ・対象児の事後の変化

上記以外の校外学習や学校生活での楽しいことがあったときには、「やりたい」と言い進んで取り組むようになった。特に平仮名での入力がしやすいようで、写真撮影だけでなく文での記録を積極的に行う姿が見られた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

対象児は、文章表現に苦手意識を持っていると思っていた。しかし、文章表現そのものが苦手なのではなく、言葉を想起し書くことに困難さを感じていたのだと気づいた。書くことが入力に替わり、言葉をその場で記録できることで、表現する楽しさや誰かに伝えたいという気持ちが生まれたように思う。

「マップ」の使用が難しかった。第三者にわかるような地図の縮小率に調整することは、地図の読み取りなどの知識が必要である。また、ねらいから反れた活動であった。

#### ・エビデンス

以前行った絵日記では、教師が促しても完成することはできなかった。活動をこなすだけで、記録を振り返ったり読み返したりすることはできず、絵日記の意味はない。

iPadでの記録に変えたことで、友達や保護者に見せることのできる記録となった。



#### ・その他エピソード

記録の際に、平仮名キーボードでの入力をした。対象児には50音の順番が完全に入っておらず、辞書を引くことは困難であった。しかし、50音順に並んでいる平仮名のキーボードでは、スムーズに入力することができた。入力の様子を見ると、「に」の場合、な行を探してから下に目を追って探している。辞書を引く時の課題は、違うところにあることに気づいた。

2.

【対象児の情報】

- ・ 学年  
小学校 4 年生の男児
- ・ 障害名  
広汎性発達障害
- ・ 障害と困難の内容  
自分の興味があることに、集中してしまう。  
話を聞き取り、記録することが難しい。  
不安が強く、できることも大人に頼ってしまう。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい  
探究心が強く、興味のあるものを調べ考えることが好きで、多くのことを記憶することができる児童である。新しいことに対して躊躇することは多いが、教師が新しいことを促し一緒に取り組むことで、色々なことに挑戦できる。  
家庭でも iPad を使用しているため基本的な操作は知っているが、動画撮影・写真撮影・YouTube など興味のあるアプリのみを使用している。自由に使い自分の興味を深めることも大切であるが、学校では、好きな iPad を使用し、色々な活用方法があることを知り興味の幅を少しずつ広げる。その活用方法が、将来の仕事に活かしたり日々の生活を助けてくれることを知ることが目的である。
- ・ 実施期間  
平成 24 年 4～5 月、12 月 11 日、13 日、18 日、  
平成 25 年 2 月 5 日、7 日、12 日、14 日、19 日
- ・ 実施者  
清閑寺 由子（教諭）
- ・ 実施者と対象児の関係  
固定学級の担任、対象児童の担当

【活動内容と対象児の変化】

- ・ 対象児の事前の状況  
昨年度のキッザニアへの校外学習では、事前に体験する仕事を考えていたが、自分の興味あるものに強くひかれ、計画通りにいかなかった。  
1 時間の授業を使い iPad を自由に使用させたが、写真や動画の撮影のみを行っていた。
- ・ 活動の具体的内容  
「リマインダー」「メモ」「カメラ」「Find iPhone」のアプリを使用し、校外学習の計

画や事前学習、当日のスケジュール管理や記録に取り組んだ。「リマインダー」は、目的地に興味のあるものだけに集中せず、計画通りに活動するために使用した。標準搭載の「リマインダー」や「メモ」は、その他のアプリと比べ、シンプルなデザインで使用方法も簡単であり、興味が他に向きにくいと考える。「Find iPhone」は、児童がキッザニアの中で一人で行動する時に「先生はここにいる、自分はここにいる」と確認ができるため、安心材料として使用した。

#### ①ねらい：様々なアプリがあることを知る

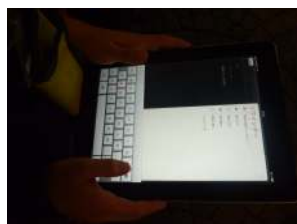
4～5月に、計算や地図など児童の興味のある内容のアプリを多数入れ、色々な機能が使用させた。始めは「さわる大科学」に集中したが、「東京23区」や計算のアプリを進めることで「こんなものもあるんだ」と言って取り組んでいた。

#### ②ねらい：校外学習の計画に、色々なアプリを使うことができる

12月に、近くの公園に遊びに行き昼食をファーストフード店で購入する計画を立てるため、「メモ」を使用した。公園での活動内容・時間や購入する商品などを、計画時に「メモ」に記録し、当日見ながら行動した。改行したりタイトルをつけ、自分で工夫してまとめることができた。その後、iPadを使用する際にはメモを活用するようになった。

#### ③ねらい：校外学習の計画を遂行することができる

2月のキッザニアへの校外学習に向けて、計画を立てた。インターネットで仕事の内容を調べ、体験したい仕事を「メモ」に記録した。校外学習のめあてや興味ある仕事の内容や、自分の考えも「メモ」に記録し、全てが1ページで見られるようにした。同時に「リマインダー」に項目を入力し、当日にしっかりと計画通りに進めるようにした。施設内では「Find iPhone」を使用し、離れた場所で児童を見守った。対象児は地図が読めるため、お互いのだいたいの位置がわかった。体験後は、その仕事の写真を撮影し、振り返りの材料とした。



#### ・対象児の事後の変化

今年度のキッザニアへの校外学習では、計画通りに体験を進めることができた。今までに体験したことの内容に挑戦することもできた。

様々なアプリを使ったことで、「(今回は)これ(を使う)でしょ。」と自分で選択し、率先して使うことができた。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

始めは、「メモに記録しましょう。」などこちらが指示をする通りに使用するだけであった。しかし、キッザニアでの校外学習では自分からリマインダーを見て「次は東京ガスだね。」と確認しながら進めることができた。時間の都合上、体験内容が変更した場合も「リマインダーに書かないと」と言って随時使用していた。

### ・エビデンス

自由に iPad を使用した際の、カメラの使用時間を計った。活動前後で変化があった。

活動前：50分（授業時間は45分であるが、使用を止められず延長した。）

活動後：15分（カメラも含め、3つのアプリを使用した。）

### ・その他エピソード

日頃から、自分の意見や考えを伝えることが好きであり、積極的に話をしてくる。また作文を書く授業では、事実や気持ちを書き連ね、長文になることもある。

しかし、iPad では何を入力すればよいのかわからなくなってしまい、なかなか説明を書くことができなかった。児童によって、入力することで表現しやすい児童もいれば、文字を書く方が表現しやすい児童もいるのだと感じた。